

京都大学情報環境機構広報誌「Info!」

2019.3.4 No.15

Info!

Contents

特集～学生生活に役立つ京都大学の情報サービス最新事情～

新入生への学習用ノートPCの保有推奨について	02
新入生に耳寄りなパソコンセットアップ講習会や施設・サービス	04
昨今の学生のパソコン・スマホ事情(新入生向けガイダンスアンケートより)	05
KUINS-Airに接続している機器と京都大学情報セキュリティポリシー	07
Windowsの不正プログラム対策ソフトウェアについて	08
らくらく設定ツール	08
KULASISアプリをリリースしました	09
思わぬところで起こってしまう 電子ジャーナル・データベースの不正利用	10
京都大学デジタルアーカイブシステムPeek のリニューアル	12
新しい教職員グループウェアのご紹介	15
「キャンパスICTラボ」サービスの現状	18
コンピュータソフトウェアの適正な利用のために	20
2019年3月に卒業や修了、異動や退職時の全学アカウント及び全学メールについて	21
KUINS 館内スイッチ・末端スイッチの更新について	24
全学機構ガイダンス	24
大学ICT推進協議会 (AXIES) 2018年度年次大会に出展しました	25
EDUCAUSE2018に参加しました	27
セキュリティの話題から 第16回 セキュリティは自分で守る!	28

新入生への学習用ノートPCの保有推奨について

■教養・共通教育でのノートPC保有の推奨

国際高等教育院が所掌している教養・共通教育では平成 28 年度から新カリキュラムが適用されています。ここでは、英語教育、少人数教育 ILAS セミナー、統計教育の充実などがはかられていますが、これらの科目では、オンラインの学習環境の利用や PC を用いたプレゼンテーション、統計ソフトを用いた演習などが求められ、自学自習での利用を主な目的に新入生の方々にノートPCの保有が推奨されています。推奨はしていますが、PCの購入を義務付けているものではありません。

■ノートPCの推奨仕様

情報環境機構では国際高等教育院の要請を受けて学生に保有してもらうノートPCの推奨仕様を定め、これに学部、学科ごとの要望を加えて入学者に示しています。仕様策定にあたっては以下のことに配慮しています。

●学習目的と学内の学習環境への適合

大学での学習では単に情報を閲覧するだけではなく、能動的にデータを分析したり、レポートを書いたり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。このため、タブレット型のPC単体ではなく、キーボードを必須のものとしています。また、大学の設備として十分な数の充電用のコンセントを設けることは現実的ではありませんので 1 日の学習に十分な時間の電池での稼働を求めています。

●購入価格への配慮

可搬性に優れたいわゆるモバイル PC は PC の中でも比較的高価な製品ですが、購入価格にも配慮して仕様を定めており、大学での学習に適切な性能を維持しつつディスプレイサイズや CPU の仕様は手ごろな価格の製品を意識して決めました。一方、メモリについては学習での利用に適した余裕のある容量を示しています。オフィスソフトについては、Microsoft Office を指定していますが、マイクロソフト社と京都大学との包括契約の一環として、安価な個人利用のライセンスを生協を通じて購入いただけるようにしています。

●安全への配慮

自転車通学する学生も多いことから、衝撃に強いこと、また頻繁に起動停止するキャンパスでの利用にも適していることから外部記憶にはSSDを推奨しています。ただし、SSDは割高になることから安価なHDDを選択する参考に先の理由を示しています。情報セキュリティの視点からはウィルス対策ソフトの導入を求めているほか、購入済みのPCを継続利用する方に保守期限の切れたOSなどを利用しないように注意喚起しています。

京都大学生協には推奨仕様に適合した PC を新入生向けに販売して頂いております。機種選定に際しては在学生の皆さんの意見など取り入れて頂いているそうですし、在学期間中の利用についての保険加入や修理体制なども配慮いただいています。

■ノート PC の保有の実態

新入生に対して年度当初に行う全学機構のガイダンスではアンケート調査でノートPCの保有状況を尋ねています。平成30年度のガイダンスでは、PCを保有、購入予定であると回答いただいた学生の割合は約98%となっています。また、このうち約 16% が Mac、残りが Windows と回答しています。大半の学生がノートPCを利用できる環境にありますが、一部、ノートPCを持たない学生もおられることへの配慮が必要です。

■ノートPC 利用環境の整備

学生の皆さんに保有をお願いしているノートPCを大学での学習に有効に活用して頂けるような環境整備にも努めています。これまで、Wi-Fi (KUINS-Air) のアクセスポイントの拡充に努めてきましたし、平成30年度の授業からご利用いただいている新しい教育用コンピュータシステムではノートPCからLinuxなどの環境を利用できるように大規模な仮想端末基盤(VDI)を導入しました。VDI環境を含む教育用の端末とノートPCの間でファイルをオンラインで共有する NextCloud というシステムも導入しています。また、剽窃対策に英文法チェック機能を加えたクラウドサービスとして Turnitin を導入し、英作文の授業で活用いただいています。京都大学生協には、レポートなどを自宅からネットワーク経由で生協の複合機に印刷できるサービスも導入頂きました。

■ノートPCの有効活用に向けて

ノートPCの購入は学生やその家庭にとって少くない経済的負担をお願いするものです。ノートPCを必携化した他大学では「購入したが、利用をあまり求められない」という学生からの批判もあるそうです。授業での資料配布やレポート提出・返却に授業支援サービス PandA を活用いただく、参考図書を電子ブックで整備するなど学生にとってノートPCが真に勉学を支える道具となるためには教職員の努力も求められます。

また、スマートフォンの普及に伴い、大学生になって初めて自宅でPCを利用する、という学生もかなり多くなっています。下宿生活を始める学生も多いこともあり、学生のPCスキルの向上が課題です。全学共通科目「情報基礎演習」は大学での学習に適したPCスキルを身に付けていただく科目として実施しており、より多く学生の皆さんに履修していただければと考えています。

(喜多 一:情報環境機構長、国際高等教育院 教授)

新入生に耳寄りなパソコンセットアップ講習会や施設・サービス

■パソコンの利用が不安な新入生に。

京大生協主催のパソコンセットアップ講習会とOffice活用講座！

入学すると演習やレポートの作成にパソコンを使う機会が増えますが、パソコン操作に自信がなく、何をするにもおっかなびっくりで触っている・・・そんな人は周りにいないでしょうか？あるいは、今この文章を読んでいるご自身がそうかもしれません。

生協では、そのような学生を対象として、「パソコンセットアップ講習会」と「Office活用講座」が行っています。パソコンセットアップ講習会では、持ち込んだ自分のパソコンを使って、パソコン自体のセットアップ方法やセキュリティソフトやOfficeのセットアップ方法を学ぶことができます。またOffice活用講座では、電子メールの書き方からWordによるレポート執筆、Excelを活用したデータ処理、PowerPointをつかったプレゼンテーションの方法について学ぶことができます。

これらの講習会・講座の詳細について知りたい人は、生協「新入生サポートWeb」を御覧ください。

http://www.s-coop.net/new_comer/start-kyodai/

■知っていますか？学生が使える便利な施設・サービス

勉学のため、様々な情報サービスが準備されています。

ラーニング・コモンズ

学内のラーニング・コモンズは図書館のものが有名ですが、学術情報メディアセンター南館にもパソコンの持ち込み学習に適したラーニング・コモンズがあります。パソコンについてわからないことがあれば、OSL（オープンスペースラボラトリー）内に居るTAに質問することも可能です。

Eduroam

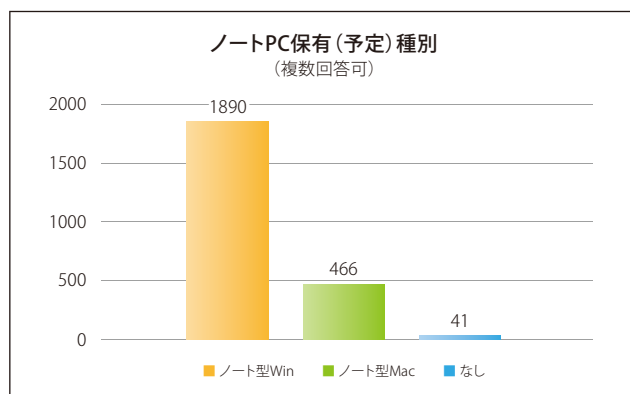
大学などの教育研究機関の間で相互にWi-Fiを利用できるシステムです。京大の構成員は京大内でKUINS-AirというWi-Fiを利用できますが、eduroamを使うと国内外の教育研究機関でWi-Fiを利用できるようになるので、留学や研究発表などで他の大学を訪れた際にも、eduroamのWi-Fiアクセスポイントを通じてインターネットへ接続することができます。eduroamを利用するためには申請が必要となるので、以下のサイトを参照しながら使い方の確認と申請手続きを行ってください。

<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/kuins/wifi/use/eduroam.html>

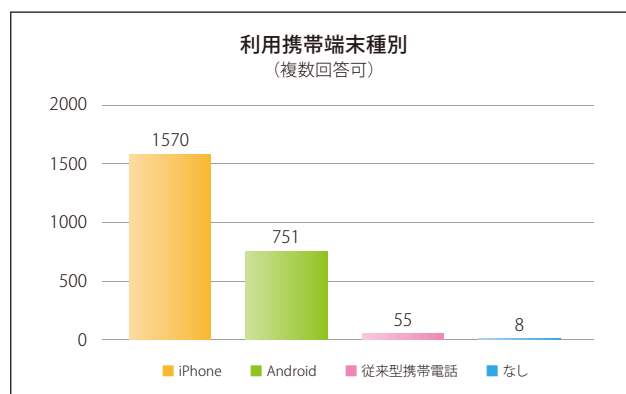
（森村吉貴：情報環境機構IT企画室 特定准教授）

昨今の学生のパソコン・スマホ事情 (新入生向けガイダンスアンケートより)

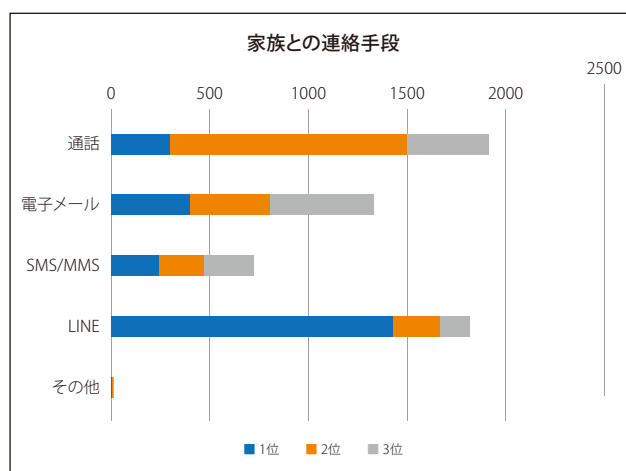
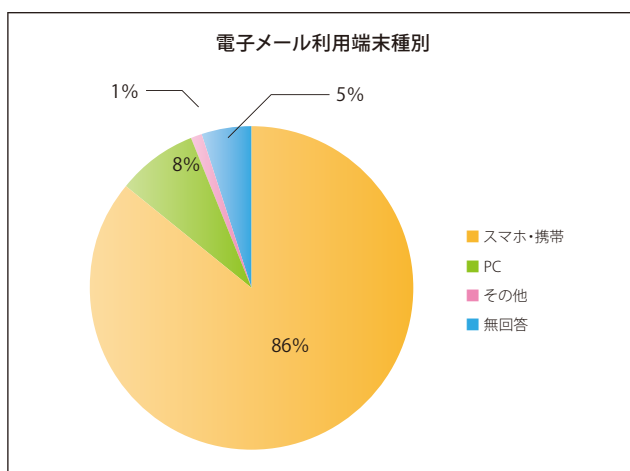
学生の皆さんは授業でパソコンを使った学習をする機会も多いと思います。一方で、スマホはもはや学生生活に欠かせないツールとなっていますね。では、2018年度の新入生の全学機構ガイダンスのアンケートの数字を見てみましょう(対象者数:2364人)。

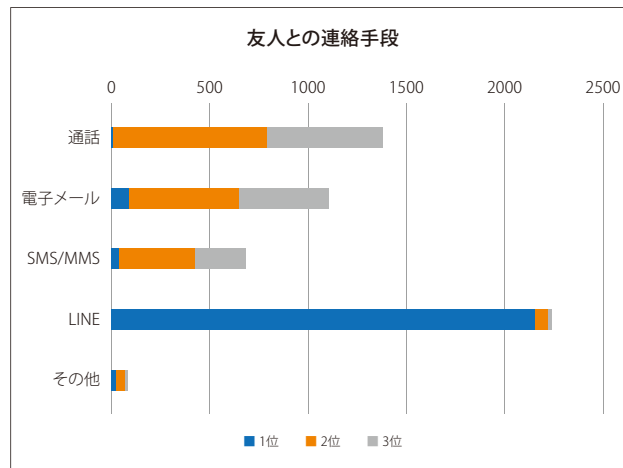


入学時点で、既に多くの人がノート型のパソコンの保有していることがわかります(予定含む)。Windows PCが多いですが、Macを持っている人も多いです。



こちらはiPhoneの保有率が高いことがわかります。一方で、AndroidもiPhoneの半分程度の保有率ですね。本質問の有効回答人数は2350人のため、実に99%を超える学生が入学時点でスマートフォンを保有していると答えています。





家族・友人への連絡手段としては、やはりLINEが最多数です。家族と友人の間の違いを見ると、家族の方が通話や電子メールやSMSが使われる割合が多いようです。

上記のアンケート結果は、学生の皆さんの実感に近いものだったでしょうか？また、教職員の皆さんはこのような実体を把握していましたでしょうか？学生生活においては、その中心にスマホがあることがわかります。一方で、大学の教職員はパソコン中心に業務を行っており、その間でギャップが出てくることも予想されます。お互いに情報交換をして、より良い大学の情報環境を作り上げていければと思います。

（森村吉貴：情報環境機構IT企画室 特定准教授）

KUINS-Airに接続している機器と京都大学情報セキュリティポリシー

KUINS-Airは、京都大学の至るところで利用できる、便利な無線LANサービスです。情報環境機構は、学生の皆さんが勉学に励むためにKUINS-Airを大いに活用いただきたいと考えています。

■KUINS-Airと情報セキュリティ

KUINS-Airは、当然のことながらKUINSの一部です。KUINSは、学内外の接続点にセキュリティ監視装置を設置しています。この装置により、24時間365日体制で、情報セキュリティインシデント発生に備えています。

■KUINS-Air接続機器の情報セキュリティインシデント対応

KUINS-Airに接続した機器から、ウイルス感染や、P2Pによるファイル公衆送信など、情報セキュリティインシデントの可能性のある通信を観測した場合、情報ネットワーク危機管理委員会より、KUINS-Airに接続した全学ID（ECS-ID/SPS-ID）の利用者が所属する部局に対して、安全の確認を依頼します。部局において当該機器やIDの安全を確認し、情報ネットワーク危機管理委員会へご報告いただくことになります。

■不正プログラム対策ガイドラインに従い、安全にご利用ください

本学では、ウイルス感染等を防止するため、不正プログラム対策ガイドラインを策定しています。KUINS-Airに接続する機器も、不正プログラム対策ガイドラインに従って、安全にご利用ください。

【京都大学全学情報システム不正プログラム対策ガイドライン：抜粋】

2. 利用者端末(本学支給以外の情報システムを除く)を所管する部局情報システム技術担当者は、利用者端末(本学支給以外の情報システムを除く)に次の各号に掲げる不正プログラム対策を実施しなければならない。

- (1) 不正プログラム対策ソフトウェア(ウイルス、スパイウェア、トロイの木馬、ワーム、ボット、ルートキット等からの保護機能ソフトウェア)が提供されている場合には、提供者との契約に基づいてインストールして情報システムを利用すること。
- (2) 不正プログラム対策ソフトウェア及び同ソフトウェアで参照される不正プログラム定義ファイルは常に最新の状態に保つこと。
- (3) 不正プログラム対策ソフトウェアのスキャン機能等により、ソフトウェアの最初のインストール時及び定期的に、不正プログラムが含まれていないことを確認すること。
- (4) 電子計算機の脆弱性情報やセキュリティアップデートの公開状況に注意し、セキュリティアップデートが公開されたら必ずインストールすること。
- (5) 情報環境機構長より、不正プログラム対策の指示があった場合には、それに従って当該情報システムに対して、対策を実施すること。
- (6) 教育・研究及び本学が行う業務に合致しないソフトウェアをインストールしないこと。
- (7) 出所の定かでないソフトウェアをインストールしないこと。
- (8) 所管する複数の利用者が利用する利用者端末にインストールされているソフトウェアを管理すること。

(中略)

4. 利用者等は、次の各号に定める不正プログラム対策を実施しなければならない。

- (1) 本学支給以外の情報システムを利用者端末として、全学情報システム又は特定部局情報システムを利用する場合、当該利用者端末に対して、本ガイドライン第2の各号に準じた不正プログラム対策の実施を確認すること。

(企画・情報部情報基盤課セキュリティ対策掛)

Windowsの不正プログラム対策ソフトウェアについて

京都大学では、不正プログラム対策ガイドラインにて、利用者端末には不正プログラム対策ソフトウェアをインストールすることが定められています。

Windows8.1および10以降については、今まで有償のものをインストールするよう推奨していましたが、本学では今後、Windows Defenderの機能が有効であれば、不正プログラム対策ソフトウェアがインストールされていると見なすこととなりました。

なお、Windows 7については利用許諾により、今まで通り有償のものをインストールしてください。

(企画・情報部情報基盤課セキュリティ対策掛)

らくらく設定ツール

大学で利用できる無線LAN、全学メール、VPN(*1)の設定を簡単に macOS や iPhone、iPad などのApple製品に設定できる「京大らくらく設定」サービスを提供しています。下記のURLにアクセスしてIDとメールアドレスを入力すると、Apple製品に自動的に設定されるようになっています。

学生用(ECS-ID) <https://u.kyoto-u.jp/raku2ecs>

教職員用(SPS-ID) <https://u.kyoto-u.jp/raku2sps>

*1: VPN (Virtual Private Network) とは、自宅や出張先などの学外ネットワークから、学内限定サービスを利用するために利用する仕組みです。VPNを利用すると、安全に、学内ネットワーク内に繋がっているのと同じ状態にできます。

(古村隆明：情報環境機構IT企画室システムデザイン部門長)

KULASISアプリをリリースしました

昨年11月にKULASISアプリをリリースしました。休み時間や通学中のわずかな時間でも、スマートフォンでレポートの締切日や休講情報の確認などができます。

学生のみなさんは、積極的に利用ください。

■アプリのダウンロード

対象OSは、iOS9.0以降、Android Ver.6以降です。

iOS版 App Store

Android版 Google Play

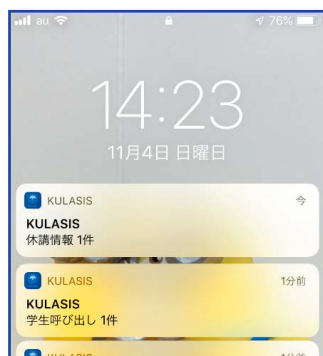


ECS-IDでログイン

■KULASISアプリの機能

1.プッシュ通知

スマートフォンのロック画面にメッセージが表示されます。対象は、学生呼出・休講情報・授業資料・授業連絡メール・レポート課題です。



2.お知らせ

学生呼び出しや履修科目の授業変更等が確認できます。画像ファイルもスマートフォンで確認できます。



3.時間割

時間割メニューからは、シラバスや授業サポート(授業連絡メール・授業資料)が確認できます。担当教員が授業資料などを更新した際に、時間割にNEWマークが表示されます。この科目をタップすると授業サポートページに遷移し、授業サポートの更新内容が確認できます。



時間割



授業サポートホーム



授業資料(詳細)

(教育推進・学生支援部 教務企画課教育情報推進室)

思わぬところで起こってしまう 電子ジャーナル・データベースの不正利用

本学では、約4万タイトルの電子ジャーナル、約5万タイトルの電子書籍、約100種類のデータベースを利用することができます。これらの電子コンテンツの利用にあたっては、電子ジャーナルやデータベースの提供元である出版社が指定する使用許諾条件を守ることが前提となっています。

条件の範囲を逸脱した不正利用とみなされる行為を行わないよう、以前から学内構成員の皆さまにお願いしているところですが、依然として出版社から不正利用を指摘されるトラブルが起っています。どのような行為が不正利用にあたるかを今回解説しますので、電子ジャーナルやデータベースを利用する際には十分にご注意ください。

1. 出版社の不正利用の判断基準

いずれの出版社においても、概ね以下の事項を不正利用とみなしています。

- プログラム等を使って、大量のダウンロード、プリントアウトをすること。
- 個人的な研究・教育目的以外でダウンロード、コピー、保存、プリントアウトをすること。
- ジャーナルの1号全体にわたるなど大量のデータをダウンロード、コピーすること。
- 複製、データの改編、再配布、転売等をすること。

特に大量ダウンロードあるいは過剰アクセスについては、出版社のサーバが常に監視しており、出版社は該当する行為を見つけると、契約窓口である図書館に対して警告を発すると共に、大学全体からのアクセスを遮断する措置を行います。

出版社からの警告には、どのような状況で不正（と思われる）行為がなされたのか、事故なのか、故意なのかなどに対する回答と今後の防止策の提示を求める内容が含まれています。

また、不正利用が続くと、一定期間の利用停止や損害賠償等のペナルティが科せられる事になります。

2. 最近の事例

最近では、プログラム等を使わずに手作業で電子ジャーナルやデータベースを利用しているにもかかわらず、不正利用に当たる過剰アクセスとみなされてしまい、大学全体からのアクセスが遮断されるという事例が増えています。ここでは、それらの事例をいくつか紹介します。

事例A 研究に使える論文を探すため、リンク先読み機能が備わったWebブラウザでアブストラクトを読み、論文のダウンロードを数回行った。

プログラム等を使って機械的にアクセスしたり、多くの論文をダウンロードしなくても、Webブラウザ（ChromeやSafari等）のリンク先読み機能が意図しないところで動作することにより、出版社に過剰アクセスとみなされたと思われる場合があります。電子ジャーナルやデータベースをご利用の際には、過剰アクセスが発生しないようにするための予防策として、念のためWebブラウザのリンク先読み機能を無効にしてください。設定方法は図書館機構Webサイトの以下のページをご参照ください。

【図書館機構】[注意]ブラウザの先読み機能による電子リソースの大量アクセスについて（京都大学図書館機構）
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1378817>

事例B 研究室で電子ジャーナルのサイトを閲覧中、席を外したすきに、机の本がキーボードの上に崩れ落ちていた。

キーボードの上に物が落ちて、F5キー（ブラウザの「再読み込み」機能に割り当て）が押しっぱなしの状態になり、電子ジャーナルへの異常アクセス回数が記録されてしまった事故が、過去に複数回発生しています。席を外すときは、電子ジャーナル等のWebサイトに接続した状態のままにせず、ブラウザを閉じて接続を一度解除していただくのが安全です。

その他のよくある事例を含めて、図書館機構Webサイトにて利用上の注意についての情報を提供しています。電子ジャーナルやデータベースをご利用の際にはぜひご参照ください。

電子ジャーナル・電子ブックリスト（京都大学図書館機構）

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/erdb/13502>

（附属図書館学術支援課）

京都大学デジタルアーカイブシステムPeek のリニューアル

京都大学デジタルアーカイブシステム(愛称Peek)は、京都大学研究資源アーカイブ(KURRA)の運用する情報システムです。KURRAは、京都大学における教育研究の過程において作成・収集された一次資料(アーカイブ資料)を保存・活用する、大学全体の活動です。前記アーカイブ資料は、調査・整理・デジタル化等を経て研究資源としてPeek から公開されます。

KURRAは、このたびPeek をリニューアルしました。2018年3月にシステムを更新し、旧システムからデータ移行のうえ2018年7月より試験公開しています。2019年4月には完全移行します。新システムの特徴は、つぎのとおりです。

(閲覧検索等公開機能)

- (1) 一般公開画面(パブリックモード)と研究者用画面(研究者モード)の統合
- (2) スマートデバイス(タブレットやスマートフォン等)に対応
- (3) 映像配信方法の改善(Adobe Flash Player 不要)
- (4) 永続識別子ARK(Archival Resource Key)採用によるパーマリンク付与
- (5) 国際規格IIIF(International Image Interoperability Framework)対応による画像の利用性向上
- (6) 認証連携「学認」経由ログイン利用の改善

(データ管理機能)

- (7) 資料目録のデータとしてアーカイブ資料のメタデータ標準EAD3 採用
- (8) 資料目録のデータからの典拠データの分離
- (9) 典拠データのうちエージェントについてアーカイブ資料のメタデータ標準EAC-CPF 採用

これらのうち(4)・(7)・(9)は日本で最初の事例とおもわれますが、公開機能の中には今やオンラインサービスでは当たり前の内容を含みます。ただ、ここに至るまでには長い道程がありました。ここでは、情報環境機構提供サービスとの関わりから、Peek リニューアルまでのあゆみを紹介します。

■第1期システムの運用開始

Peekは、2019年で運用開始から10年を迎えました。2009年の運用開始から、機構提供のVM ホスティングサービスを利用してきました。同サービス提供の最初期にあたります。2009年当時の京都大学デジタルアーカイブシステムは、6台のVM(ウェブサーバ、動画配信サーバ、アプリケーションサーバ、データベースサーバ、簡易データベースサーバ、横断検索サーバ)とNAS(5TB)で構成されていました。当時VMは1台あたりCPU:2コア・メモリ:2GB・ディスク容量:200GBとあり、京都大学デジタルアーカイブシステムは1台を除きメモリが4GB増設だったため、当時から「大口VMホスティング利用」とされ、サービスにとってもテストケースとなっていたのではないのでしょうか。

いまPeekには少なくない量の映像資料(音声を含む)があり、以前からストリーミング方式で利用者の視聴に供してきました。2009年当時はホームページサービスのオプションとしてストリーミングサービス(Helix Server)が提供されていても、デジタルアーカイブシステムの中心機能と連携しづらかったのか、前述の「動画配信サーバ」を用意し、AdobeのFlash Media Serverを採用していました。そのため以前はAdobe Flash PlayerをインストールしたPC上のブラウザでPeekの映像を視聴してもらっていました。映像視聴におけるFlash Player利用は、このころ一般的でしたが、同時に情報セキュリティや動作の重さの問題も惹きつつあった、と記憶します。

■学外一般公開からログイン利用整備まで

2011年3月には、京都大学デジタルアーカイブシステムは学外一般公開を果たしました(パブリックモード)。運用開始当初の画面インターフェースは、アーカイブ資料の情報提示としてはわかりやすく研究者・専門者向けだったため、新たに学外一般公開用のインターフェースを作成したのです。Peekに収められているアーカイブ資料の情報には、学外一般への公開には相応しくない、研究者に限って公開できる内容も含まれています。このため本学構成員だけ、学内だけで閲覧視聴できる仕組みがもとめられていました。先にふれた「研究者・専門者向け」の運用開始当初の画面インターフェースは、後に教職員アカウントSPS-IDや学生アカウントECS-IDでログインして利用する

「研究者モード」となりました。情報環境機構(統合認証センター)よりSPS-ID/ECS-ID利用を許されたのは2012年3月ですが、いまだにSPS-ID/ECS-IDの案内ページ「サービス一覧」へ載っていないことから、Peekの学内外への周知の必要性を感じます。

2012年から2013年にかけてログイン利用に関する機能を整備し、2013年9月に学術認証フェデレーション「学認」運用フェデレーションのサービスプロバイダー(SP)として承認されました。本学では初めての「学認」SPで、この手続きに際し情報環境機構からご支援いただきました。もっとも、このときは学外の「学認」参加機関からは利用に際し送信を求められる属性情報のハードルが高い設定となっていたようで、実際には資料に関係する学外研究者へ利用やデータ編集等の協力を「学認」のログインで実現することはできませんでした。

■愛称Peek、データ充実、そして陳腐化への対応と限界

2014年には京都大学デジタルアーカイブシステムの愛称の公募からPeekと決まり、このデザイン提案に合わせて研究者モードのインタフェースが更新されました。2016年にはパブリックモードもPeekのデザインに合わせたインタフェースへ更新されました。度重ねてのインタフェース更新にもかかわらず、このころ既に普及していたタブレット型端末やスマートフォン(スマートデバイス)での表示には、その根本の情報送出に課題があり、対応し切れていませんでした。また、スマートデバイスをはじめ多くの利用環境でFlash Playerに対応しない傾向が明らかとなり、Peekの特徴である映像資料を体験しづらい状況となったのです。

愛称も決まり特徴ある資料、研究資源も蓄積してきたところ前述の状況があらわれ、そうかといって映像配信に関してアーカイブ資料管理と合う代替手段がなく、まずバージョンが古くなっていたFlashMedia ServerからAdobe Media Server(AMS)へ上げることになりました。AMSはFlash Playerを必要としない配信方式へも対応し、Flash Player利用前提のファイル形式(FLV/F4V)以外も取り扱うことができました。後にAMS取り扱い映像ファイル形式にMP4(H264/MPEG-4 AVCコーデック)を加え、新規登録の映像データはMP4を基本とします。このとき機構提供ストリーミングサービスも代替手段候補でしたが、いずれ2016年11月末サービス終了となる前の不確かな状況から、AMSを採用しました。

古くなっていたのは映像配信だけではなく、使用VMのOSも運用開始当初のRed Hat Enterprise Linux(RHEL)バージョン5のままで、そのサポート終了が2017年3月末と迫っていました。VMホスティングサービスではサポート終了OSの使用は許容されないため、急ぎ対応をもとめられ、当時の最新版RHEL7へアップデートすることとなります。しかしPeekで採用していたアプリケーションInfoLib(当時のバージョン)もAMSも、RHEL7上では動作を保証できないというのです。それでもInfoLibはモジュール更新で、AMSも実際の動作確認で、それぞれ対応しOSアップデートを果たしました。

■リニューアルへ

Peek第1期システムは、暫時の延命を図ったものの、種々の課題の解決にはリニューアルしかありません。OSアップデート前から、リニューアルのための準備もKURRA関係者で進めていました。本部より交付されるKURRA事業経費ではとても対応できない金額規模のため、平成29年度全学経費「京都大学デジタルアーカイブシステム更新事業」を申請します。幸いにして申請が認められ、同年度のうちに調達となり、2018年3月にパッケージソフト(InfoLib-Archives)で納品されました。仕様策定から技術審査等まで、KURRA連携部局の学術情報メディアセンターの関係者とともに情報環境機構にはKURRA支援機構としてご協力いただき、その後の新システムで使用するVMやストレージ、データ移行等など機構のご配慮ご協力により蹟くことなく進みました。

映像配信の機能も、機構の学習支援サービスにおいて利用できるビデオプラットフォーム「Kaltura」と連携することでAMSから脱却しています。「学認」SPとしても要求属性を減らし、学外の「学認」参加機関構成員からのログインに配慮しました。IIIFについては、いま一見IIIF対応画像かどうか区別がつかないものの、対応画像ならIIIF画像APIの画像リクエストURI構文や画像情報リクエスト構文にもとづいて利用できます。リニューアルされたPeekで利用できる機能は、別にあらためて紹介するつもりです。

よりよいPeekのサービスの実現に向け、今後も機構提供サービスを活用させていただきたいとかがえています。

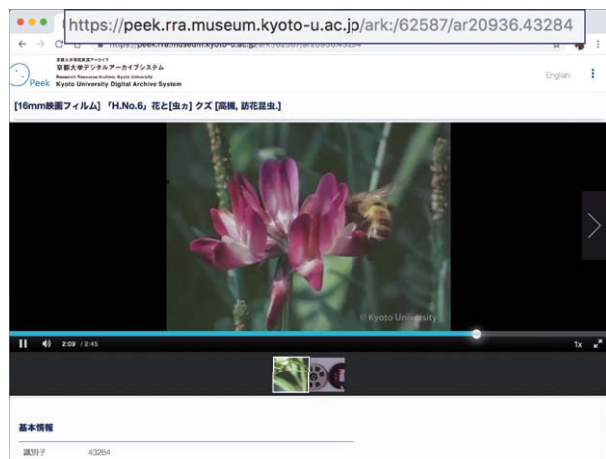
(五島 敏芳:総合博物館・講師)



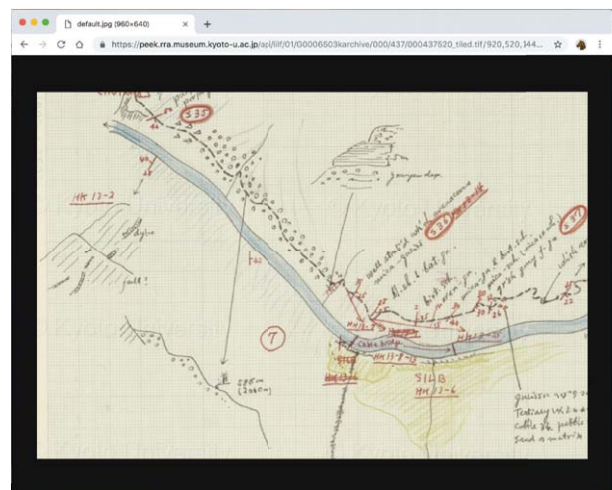
Flash Player を使った映像再生 (旧システム)



Flash Player のないiPad での映像再生 (新システム)



永続識別子ARK による資料情報のパーマリンク



IIIF 対応画像の切り抜き表示

新しい教職員グループウェアのご紹介

情報環境機構電子事務局部門では、2019年(平成31年)1月に教職員グループウェアのリニューアルを行い、2月に教職員用メール(KUMail)Gmailの並行稼働を開始しています。

いずれも長い期間慣れ親しんだシステムからのリニューアルであるため、新システムの利用開始直後は戸惑われることもあるかもしれませんが、出来るだけ快適に新システムをご利用いただけるよう、わかりやすい操作マニュアル作成や、利用者の属性に応じた利用ガイド(P.17 4.資料掲載場所 参照)を引き続き提供していく予定です。

本記事では、これまでにご案内した内容も含め、新しい教職員グループウェアに関する機能についてご紹介します。

1.ログインについて

システム構成としては、Cybozu社のGaroon、kintone及びGoogle社のG Suite for Educationのクラウドサービスを利用しています。これらのシステムは全て京都大学統合認証システム(Shibboleth認証)によりSSO(シングル・サイン・オン)でログインが可能です。ただし、しばらく操作を行わずに一定時間を経過すると、GaroonやShibboleth認証のタイムアウトにより自動でログアウトすることがあります。ご利用中に自動でログアウトした場合は、ログイン操作をやり直してください。

ログインURLは以下のページに記載しています。

URL:<https://u.kyoto-u.jp/groupware>

情報環境機構サイト > 提供サービス > ポータルサイト > 教職員用ポータルサイト
-教職員グループウェア->【学内限定】教職員グループウェア(Garoon)について

2.機能紹介

教職員グループウェアの上部にアプリケーションメニューとして、各機能へのアイコンを表示しています。



アプリケーションメニュー一覧



ポータル

掲示板の新着情報や個人のスケジュール、各機能へのリンクを表示します。



メール・旧メール

教職員用メール(KUMail)へのリンクです。

旧KUMailへのリンクは2019年5月末まで掲載する予定です。



メッセージ

メールのようなフォーマットで教職員(以下、ユーザー)同士のメッセージ交換が可能であり、最大1024MBのファイルを添付できます。旧グループウェアの大容量文書機能の代用としてこのメッセージをご利用ください。操作方法は、マニュアル_11_メッセージを参照ください。

また、回覧板機能についてもこの機能で代用可能です。操作方法は、上記マニュアルのP.15「11.4.1.回覧板として使用する(送信したメッセージの閲覧状況を確認する)」を参照ください。

【マニュアル掲載場所】

<https://ku1.cybozu.com/g/cabinet/view.csp?hid=19615&fid=71035>



スケジュール

個人の予定や他のユーザーの予定を管理できます。

Gmailのサービスを開始する2月18日以降に登録・変更された予定は、Google Calendarと相互同期されます。



ファイル管理

全学のファイル共有のための文書共有フォルダや各部局用のフォルダがあります。

また、他部局との共有には他部局共有フォルダが利用できます。



掲示板

全ユーザー向けの通知等を掲載する総合掲示板や部局専用の部局掲示板があります。



施設予約

会議室や備品等の予約管理を行えます。**スケジュール**で個人の予定を登録する際に、併せて施設予約登録も行えます。



職員検索

座席表や**ユーザー名簿**、**職員録**の確認、**2次グループ検索**を行うことができます。



通知一覧

メッセージ、**スケジュール**、**施設予約**の承認申請、**ワークフロー**の新着通知が表示されます。



メモ

個人用のメモを管理できます。



ToDoリスト

個人ToDoの登録や**共有ToDo**の閲覧ができます。



RSSリーダー

設定したサイトの更新情報を一定時間ごとに受信し表示します。



お気に入り

メッセージや**ファイル管理**等のお気に入りコンテンツを管理できます。



業務リンク

e-Learningや業務システム等のリンクを掲載しています。



マニュアル・FAQ

各機能の操作マニュアル、FAQ、問合せ先へのリンクを掲載しています。

※**ワークフロー**（業務リンク > 申請・ツール等 > ワークフロー）

各種申請を行う機能である旧グループウェアの受付システム機能の代用として、この**ワークフロー**をご利用ください。操作方法は、マニュアル_12_ワークフローを参照ください。

【マニュアル掲載場所】

<https://ku1.cybozu.com/g/cabinet/view.csp?hid=19615&fid=71033>

3.デスクトップ通知用アプリ、モバイル用アプリ

●デスクトップ通知用アプリ

PCでGaroonの最新情報やリマインド通知を受け取るデスクトップ通知用アプリ「Cybozu Desktop」も提供されていますのでご利用ください。

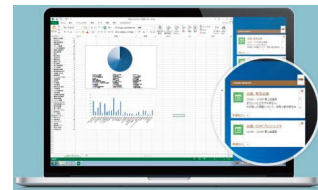
「Cybozu Desktop」のダウンロードは以下のサイトから行ってください。

URL：<https://cybozu.co.jp/info/desktop2/>

利用方法は、マニュアル_20_CybozuDesktop【デスクトップ通知用アプリ】を参照ください。

【マニュアル掲載場所】

<https://ku1.cybozu.com/g/cabinet/view.csp?hid=19615&fid=71039>



●モバイル用アプリ

Garoonは、モバイル端末に対応しており、スマートフォン用に最適化された画面（スマートフォン画面）を表示できます。また、学外からもアクセス可能なため、ご自身のスマートフォンのWebブラウザで簡単にご利用いただけます。

また、Garoonのスマートフォン専用アプリ「KUNAI」も提供されています。これを利用してスケジュールの登録や掲示板等の閲覧、自分宛ての最新情報をプッシュ通知で受け取ることができます。

「KUNAI」のダウンロードは以下のサイトから行ってください。

URL：<https://products.cybozu.co.jp/kunai/>

利用方法は、マニュアル_21_KUNAI【スマートフォン専用アプリ】を参照ください。

（スマホのWebブラウザでアクセスした場合とKUNAIを利用した場合の機能の違いについてもマニュアルに詳しく掲載しています。）

【マニュアル掲載場所】

<https://ku1.cybozu.com/g/cabinet/view.csp?hid=19615&fid=71038>



4.資料掲載場所

●Garoonの利用にあたって

URL：<https://u.kyoto-u.jp/groupware>

情報環境機構サイト > 提供サービス > ポータルサイト > 教職員用ポータルサイト -教職員グループウェア->

【学内限定】教職員グループウェア(Garoon)について

●教職員グループウェア操作マニュアル

URL：<https://ku1.cybozu.com/g/cabinet/index.csp?hid=19615>

マニュアル・FAQ > 教職員グループウェアマニュアル > 操作マニュアル

●FAQ

URL：<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/portal/groupware/>

情報環境機構サイト > よくある質問 > ポータルサイト > 教職員ポータルサイト

教職員グループウェアに関するご質問等は、以下までお問い合わせください。

＜お問い合わせ先＞ 情報環境機構 情報環境支援センター

内線：（本部）16-7840/7842（情報環境支援センター）

（本部）16-2198（グループウェア問合せ番号）

【問合せフォーム】 <https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/inquiry/?q=gw>

（情報環境機構電子事務局部門）

サービス紹介

「キャンパスICTラボ」サービスの現状

「キャンパスICTラボ」とは情報環境機構が提供する京都大学のためのICTシステムの実験場です。

<https://www.rd.iimc.kyoto-u.ac.jp/>

日々開発が続けられているサービスや、まだ動作実績がないようなシステムでも、構築・公開して、学内(ときには学外)の有志に利用してもらい検証を行なっています。動作保証はできませんが、ユニークなサービスや最新のシステムを試して頂くことができます。また、正式サービスとして京都大学に導入すべきサービスを選定する場としても活用されています。

ここでは、これまでに「キャンパスICTラボ」で試行してきた主なサービスと、その後の展開を紹介します。

■クラウド型ストレージサービス Nextcloud / ownCloud

2015年にオープンソースの ownCloud を利用してクラウド型ストレージサービスの試行サービスを開始しました。ユーザごとのデータ利用量などを計測しながら約2年半の運用を行いました。学生・教職員合わせて約300名の方に利用して頂き、準備していた 1TB の容量を使い切りました。

2018年には、ownCloudから派生した Nextcloud を用いて容量も増やして新しくサービスを開始しました。Nextcloud ではオンラインでのファイルの共同編集機能、ファイル内検索機能、Markdownによるドキュメント作成、ドローイングアプリなども有効化しており、より便利なサービスになっています。

■京大ラクラク設定ツール

本学の学生さんが独自に開発していたWebサービスを情報環境機構が引き継いで、試行サービスとして提供したものです。macOS や iPhone や iPad などの iOS 機器に対して、KUINS-Air と VPNのネットワーク設定、メールアドレスの設定を半自動で行うツールです。

Windows や Android に対して同じようなサービスを提供できないか模索中です。

■短縮URLサービス KNIVES

<https://u.kyoto-u.jp/~> で始まる、京都大学専用の短縮URLサービスです。

短縮URLを登録できるのは教職員だけ、登録できるURLは京都大学に関係のあるサービスだけ、という制限をしているため、他の短縮URLサービスに比べて安全に利用して頂けます。もちろん、短縮URLには誰でもアクセスできますので、メールやパンフレットなどに記載するURLとして利用して頂けます。

情報環境機構の本サービスとして導入できるよう検討を進めています。

■KUBAR (くば〜る)

学内の関係者にだけファイルや動画、教材などを配布できるサービスです。

ECS-ID や SPS-ID で認証ができれば、学内ネットワークに限らず、自宅や出張先のネットワークなどからもアクセス可能です。

現在、4つのコンテンツを配布しています。

- 情報倫理デジタルビデオ
 - 2018宇治事業場新任教職員及び新入院生等のための安全衛生教育講習会
 - IP電話化検討の報告書
 - 次期教職員グループウェア及び次期教職員用メール (KUMail) の利用に関する説明会
- コンテンツ提供者はログからアクセス状況を確認することもできます。
- KUBARで配布したいコンテンツをお持ちの方は、情報環境機構へお問い合わせください。

■クライアント証明書発行申請 shibcert

国立情報学研究所 (NII) が提供している「UPKI電子証明書発行サービス」に対して、個人認証に使えるクライアント証明書や、メールの暗号化・電子署名に利用できるS/MIME証明書の発行を申請するためのシステムを情報環境機構で独自に開発しました。

これまでに約3000枚の証明書の申請を処理しています。NIIと協力して、他大学でも利用できるシステムとして開発が続いています。

■研究データ保存サービス

研究データの10年保存のために試行サービスを立ち上げ、200件超の研究データが登録されました。

この試行サービスを元に、データ保存サービス<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/archive/>が正式サービスとして立ち上がりました。試行サービスに登録された研究データ、正式サービスに移行されています。

■11月祭申請システム PeNGUIN

京都大学11月祭事務局が2018年の11月祭に合わせて開発した電子申請システムPeNGUINは、統合認証システムとの連携や、仮想サーバの提供などの面で、情報環境機構が協力しました。

(古村隆明: 情報環境機構IT企画室システムデザイン部門長)

コンピュータソフトウェアの適正な利用のために

1. コンピュータソフトウェアの適正利用の必要性について

コンピュータソフトウェア（以下「ソフトウェア」という。）は、教育、研究及び一般事務等の大学業務において不可欠なものです。しかし、ソフトウェアは「著作物」であり、利用する場合は著作権者（ソフトウェアメーカー等）の使用許諾を得なければなりません。

許諾なしにソフトウェアを利用すると、著作権法違反となり、高額な賠償金や刑事罰等の厳しい罰則を科せられる可能性があります。また、場合によっては、マスコミ報道等により京都大学の信用失墜につながりかねません。

2. ASSETBASEから新支援ツールへ

ソフトウェアを適正に利用するためには、「ソフトウェアライセンス（＝ソフトウェアの使用許諾）」の適正管理が不可欠です。使用許諾に合わない利用（許諾数を超えるインストール等）を防ぐためには、ソフトウェアライセンスの内容と実際に利用しているソフトウェアが一致していることを確認しなければなりません。

情報環境機構では、ソフトウェアライセンスの適正管理のために、以前ソフトウェアライセンス管理システム「ASSETBASE」を運用していました。ASSETBASE導入後、各PCのソフトウェアの管理をすることができるようになったことから一定の成果があったことは間違いありませんが、一方で部局担当者の作業量が多く、大きな負担にもなっていました。そこで平成29年10月末をもって、ASSETBASEを終了し、新たに、より簡便にソフトウェアライセンスを管理できるツール（以下「支援ツール」という。）を作成し、提供することにしました。

3. 新しい支援ツールについて

平成30年12月17日より、新しい「支援ツール」の運用を開始しました。この新しい支援ツールは部局担当者の負担を極力減らし、より簡便にソフトウェアライセンスの管理ができるようになっています。支援ツールの特徴は以下のとおりです。

○ライセンスキーとの紐付けなし

ASSETBASEでは、購入したライセンスキー（登録コード等）とパソコンにインストールされたソフトウェアを紐付けていましたので、管理が非常に煩雑でした。支援ツールはライセンスキーによる紐付けを行わず、ライセンス数のみを管理（各利用者の責任においてライセンスキーの有無を確認）となりますので管理作業が縮減されます。

○管理対象ソフトウェアの絞り込み

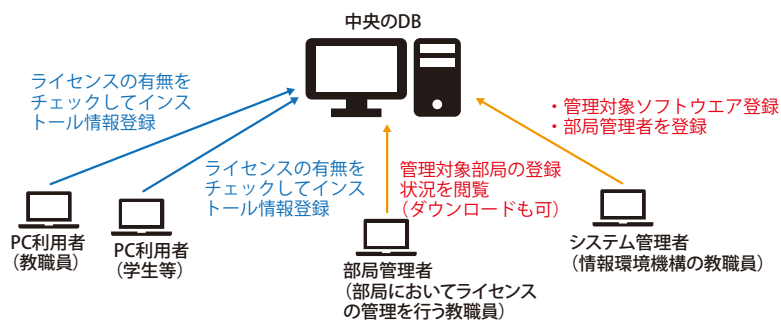
パソコンにインストールされているソフトウェアについては、リスク管理上重要性が高いソフトウェアのみを対象としていますので、管理が容易になります。

○スキャン動作の「見える化」

ASSETBASEでは、インストールソフトウェア確認のためのプログラムがブラックボックスであったため、自身のパソコンでプログラムを走らせることをためられる方がいらっしゃいました。支援ツールでは、プログラムの動作内容を確認することが可能であり、また、DBに登録されているスキャン結果を登録前に確認することもできますので、こういった不安が払しょくされています。

支援ツールには、以下のURLよりアクセスしていただけますのでぜひお試しください。

<https://slm.iimc.kyoto-u.ac.jp/slm/sessions>



支援ツールの概要図

4. おわりに

京都大学では、適正なソフトウェアライセンス管理を各部局で実施していただくことをお願いしています。支援ツールは、ソフトウェアライセンス管理業務の効率アップに資するものであると考えておりますので、各部局においてぜひご利用ください。

※詳細は、下記URLをご参照ください。

<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ismc/use/post.html>

一方で、ソフトウェアの適正な利用を徹底するためには、システムやツールを用いた管理だけでは限界があり、ソフトウェアライセンス管理と同時に、ユーザのコンプライアンス意識の向上が不可欠です。支援ツールを用いても、例えば、不正に改変されて本来許諾された範囲を超える機能を利用していた場合は、不正を発見することが困難です。ユーザにはこういった不正利用を行ってはいけないという事を強く認識していただく必要があります。情報環境機構では、これからも、新入生、新採用職員ガイダンスや部局への注意喚起通知を通して、京都大学構成員の皆様に、「ソフトウェアの適正な利用」をお願いしていきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(小寺 裕之:企画・情報部情報推進課情報基盤掛)

2019年3月に卒業や修了、異動や退職時の全学アカウント及び全学メールについて

京都大学で発行している全学アカウント(ECS-ID(学生アカウント)・SPS-ID(教職員アカウント))及び全学メール(KUMOI(学生用メール)・KUMail(教職員用メール))は、京都大学に籍がなくなれば利用できなくなります。下記に、それぞれのケースによって必要な手続き及び実施いただく作業を記載しますので各自でご準備ください。

■3月で卒業、修了、退学等される学生のみなさま

2019年3月31日までに以下の準備をしてください。

①必要なファイルのバックアップ

教育用コンピュータシステムのPC端末やクラウドストレージ上に保存している必要なファイルを個人のPC等にバックアップしてください。教育用コンピュータシステムのPC端末に保存しているファイルは、PC端末にログインし、必要なファイルをUSBメモリに保存するか、クラウドストレージ経由でご自分のPC端末等にバックアップしてください。

また、クラウドストレージで共有しているファイルは、アカウントが停止すると共有している方もアクセスできなくなります。必要に応じて事前に共有ファイルの整理をしてください。

クラウドストレージについて：

URL:http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/ecs/cloud_storage/

②必要なメールのバックアップ

メールソフトを使う方法とGmailやHotMail等に取り込む方法があります。下記に掲載していますので、参考にしてください。

URL: http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/mail/kumoi_Use/

③メールの転送設定

転送先を設定しておけば、KUMOIに届いたメールは、利用停止後3ヶ月(6月末まで)の間、転送先に転送されます。下記にアクセスのうえ転送設定してください。

京都大学全学アカウント管理>パスワードの変更・学生用メール(KUMOI)の転送設定変更

URL: <https://ecs.iimc.kyoto-u.ac.jp/>

④生涯メールアドレスの転送先設定の確認

正規学生の方には、生涯メールアドレスを発行しています。下記URLにアクセスのうえ、「登録情報の変更」から生涯メールアドレスとパスワードでログインし、転送先メールアドレスを確認・変更してください。

URL: <https://www.lm.iimc.kyoto-u.ac.jp/kulml/>

※生涯メールは転送専用のアドレスですが、転送先に常に有効なアドレスを登録しておくことにより、生涯にわたってご利用いただけます。アドレスをまだ有効化されていない場合は、「お問い合わせ」からご連絡ください。

⑤その他

4月以降に利用されるメールアドレスを関係者に知らせておいてください。

■4月以降も京都大学に在籍するが、身分や所属が変更になる学生のみなさま

【学生区分で身分が変わる場合(学部生→院生、院生→研究生、研究生→院生など)】

同じECS-ID及びKUMOIアドレスをそのままご利用いただけます。この場合は、手続き不要です。

なお、ECS-IDの通知書を受け取られた方で、通知書にこれまでと異なるECS-IDが記載されている場合は、二重発行の可能性がありますので、情報環境支援センターまでご連絡ください。

【学術振興会特別研究員(PD)や非常勤講師、研修員などに身分が変わる場合】

ECS-IDの資格変更(継続)の手続きをすることで同じECS-IDとKUMOIアドレスが利用できます。5月から6月にかけてKUMOI宛にお知らせしますので、案内が届きましたら資格変更の手続きをしてください。

【京都大学の教職員(非常勤講師を除く)になられる場合】

京都大学の教職員には、SPS-ID(教職員アカウント)とKUMail(教職員用メール)アドレスが発行されますので、以降はそちらをお使いください。ECS-ID及びKUMOIアドレスは利用できなくなりますので、上述の「3月で卒業、修了、退学される学生のみなさま」をご覧のうえご対応ください。

■異動、退職等をされる教職員(学外非常勤講師を除く)のみなさま

【学内での異動の場合】

学内異動の場合は、これまでと同じSPS-IDとKUMailアドレスをお使いください。手続きは不要です。

【退職、学外へ異動される場合】

京都大学を離籍されるとSPS-IDとKUMailアドレスは利用できなくなります。以下の準備をしてください。

①必要なメールのバックアップ

SPS-IDが失効する前にメールを保存して、新しいメール環境に移行できるよう準備してください。

URL: http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/faq/mail/kumail/kumail_9.html

②メールの転送設定

SPS-IDが失効する前に転送先メールアドレスが確定している場合は、メール転送の設定を行ってください。

KUMailアドレスに届いたメールは、360日間は転送先で指定したメールアドレスに転送されます。もし、

SPS-ID失効前に転送先メールアドレスが確定していない場合は、その旨記載のうえ「kumail-qa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp」までメールでご相談ください。

③生涯メールアドレスの転送先設定の確認

常勤教職員の方には、生涯メールアドレスを発行しています。下記URLにアクセスのうえ、「登録情報の変更」から生涯メールアドレスとパスワードでログインし、転送先メールアドレスを確認・変更してください。

URL: <https://www.lm.iimc.kyoto-u.ac.jp/kulml/>

※生涯メールは転送専用のアドレスですが、転送先に常に有効なアドレスを登録しておくことにより、生涯にわたって利用可能です。アドレスが有効化されていない場合は、「お問い合わせ」からご連絡ください。

URL: <https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/inquiry/>

④ネットワークのVLAN管理責任者やホスティングサービスの利用者になっておられる場合は、管理者等の変更手続きをお願いします。

◆ネットワークのVLAN管理責任者等

教職員認証システム(グループウェア)＞業務リンク＞ネットワーク申請等＞
KUINS接続機器登録データベース

◆ホスティング利用者

別途利用者の方あてに2018年度のホスティングサービスの利用について照会メールを送信いたしますので、案内にそって手続きをお願いします。

【京都大学に何らかの身分が残る場合】

京都大学の学外非常勤講師、学振特別研究員、研修員、受託研究員、民間等共同研究員などになられる場合は、申請していただくことで、ECS-IDを発行します。申請方法等は下記をご覧ください。

URL: <https://url.iimc.kyoto-u.ac.jp/z3nu0>

※名誉教授の先生方には一括してECS-ID(学生アカウント)を発行しています。有効化処理をしてご利用ください。このECS-IDにてKUMOI(学生用メール)やネットワークが利用できます。また、一度取得されたECS-IDとKUMOIのメールアドレスは年度更新なく利用可能です。

◆教育研究活動データベース(教員DB)利用者

教育研究活動データベースは、在職者のデータのみ公開しているため、退職されるとデータの閲覧やデータの書出しができなくなります。在職中に必要なデータの書出し・保存をお願いします。また、教育研究活動データベースは、JSTの researchmap と連携しています。researchmap に登録されている情報を引き続き利用できるよう、以下の点をご確認ください。

* URL: <https://researchmap.jp/> にログインし、「マイポータル」において登録している連絡先メールアドレスが、異動後であっても有効であることを確認してください。

* researchmap へのログイン方法、利用方法については、researchmap.jp のマニュアルページを参照ください。

■お問い合わせ

IDやメールアドレスの取得・利用に関して不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

E-mail: support@iimc.kyoto-u.ac.jp

(情報環境支援センター)

お知らせ

KUINS 館内スイッチ・末端スイッチの更新について

学内ネットワークは、構内ごとに配置されている基幹系スイッチと、館内スイッチ（建物内ネットワークを収容）・末端スイッチ（各フロアのネットワークを収容）から構成されています。情報環境機構では、第3期中期目標中期計画期間中に毎年一定数の館内スイッチ・末端スイッチを更改する計画を策定し、重点戦略アクションプランで採択されました。2017（平成29）年度以降、順次スイッチを更新しています。

■2018（平成30）年度

●桂キャンパス（残りの建物） ●霊長類研究所 ●生態学研究センター ●薬学部構内（一部）

2019年度（吉田南構内、宇治構内）、2020年度（薬学部構内、吉田南構内）、2021年度（本部北構内）と順次エリアごとに更新予定です。スイッチの入れ替えで何かとご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願いします。

（情報環境機構情報基盤部門）

全学機構ガイダンス

目的

京都大学での新しい勉学・研究生活をスムーズにスタートしていただけるよう、新たに入学された方を対象として、情報環境・図書館・環境安全保健に関わる全学機構組織が連携してガイダンスを行っています。

ガイダンスの内容

第1部

【情報環境：ネットワークの利用とセキュリティ】

京都大学の情報環境がどういうものか、どんなことができるのか、利用する上でどういうことに注意が必要なのか、情報環境を利用するための学生アカウント（ECS-ID）に関する注意事項など、包括的にお伝えします。

【環境・安全・保健】

大学生活が事故や健康障害によって台無しにならないよう、本学の事故の傾向やその対策、実験中の安全対策、京都大学のエコに対する取り組みなどについてお伝えします。

【図書館の利用】

図書館が提供している電子ジャーナル、データベース、電子ブックなど電子リソースの適正な利用方法と注意点をはじめ、図書館の利用全般についてお伝えします。

第2部

【心肺蘇生・AED講習】

胸骨圧迫とAEDの使用法を、簡易の教材（あっぱくん）を使って体験しながら、心肺蘇生法によって命を救う術を学びます。

今年度は、下記日程にて実施します。

対象	開催日時	開催場所
新入学部生	4月2日（火）、3日（水）、4日（木） 14:00～16:30	吉田南構内吉田南4号館
大学院生向け	4月2日（火）、3日（水）、4日（木） 9:30～12:00	吉田南構内国際高等教育院3階
留学生向	4月19日（金） 16:30～18:30	吉田南構内国際高等教育院3階

（情報環境支援センター）

大学ICT推進協議会 (AXIES) 2018年度年次大会に出展しました

情報環境機構では、2018年11月19日(月)から21日(水)にかけて札幌コンベンションセンターで開催されました大学ICT推進協議会(AXIES)2018年度年次大会に出展、参加しました。

■ 大学ICT推進協議会とは

大学ICT推進協議会 (AXIES: Academic eXchange for Information Environment and Strategy) は高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与することを目的として設立された組織です。現在111の大学や研究機関及び62の企業が加入し、12部会(CIO部会、ITベンチマーキング部会、情報教育部会、オープンソース技術部会、学術・研究コンテンツ共有流通部会、ソフトウェアライセンス部会、認証連携部会、クラウド部会、ICT利活用調査部会、教育技術開発部会、高品質・セキュリティICT部会、研究データマネジメント部会)で構成され活動を行っています。

■ 年次大会とは

年次大会は、年に1回、12月中旬に開催されており、会員や国内の高等教育・学術研究機関間で、各種専門的情報の提供と交換が行われるものです。会期中には、展示会、企画セッション、一般セッション、ポスターセッションなどが開催されます。

今年度は1,100名の参加と62団体(78ブース)の出展がありました。

■ 出展内容

情報環境機構は展示会に出展し、「京都大学におけるBYOD時代の教育学習支援環境」と題して京都大学におけるBYODに向けた教育学習支援環境について紹介しました。

ブースに来て頂いた方からは、学生が使用するPCのスペックについて、PC教室削減における部局からの抵抗の有無、無線LAN環境のトラブルなどのBYOD導入における課題について様々な質問を受けました。

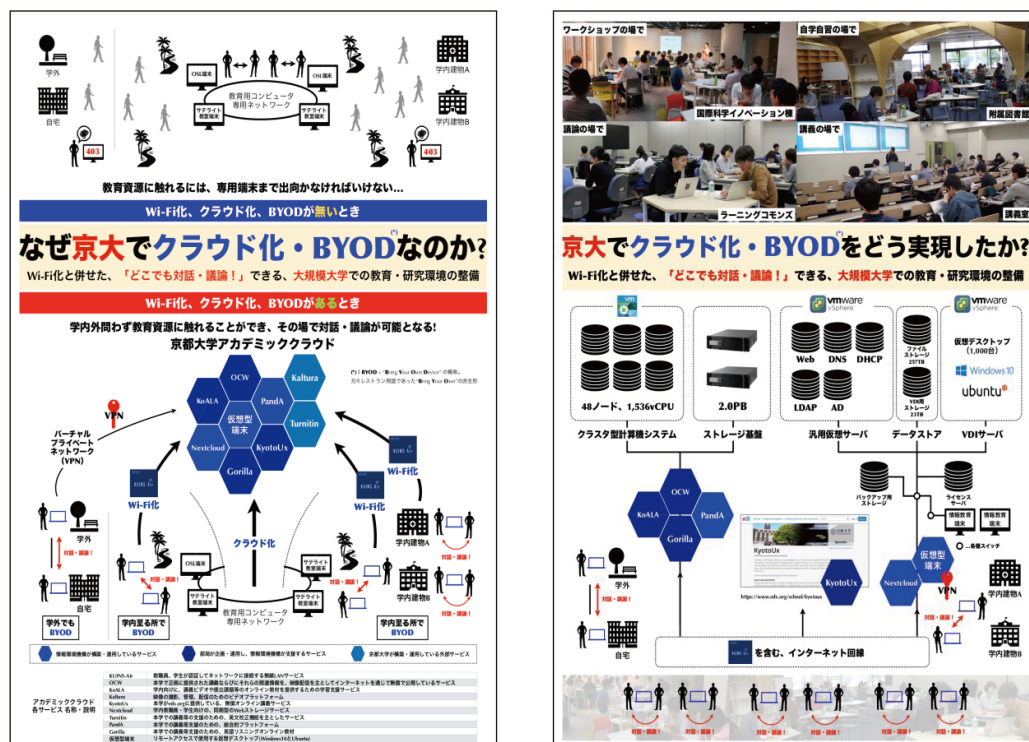


図1 出展ポスター

■ 基調講演

基調講演では、EDUCAUSE会長John O'Brien氏による「The 20th Anniversary of EDUCAUSE: Looking Back and Looking Forward」、札幌市立大学理事長・学長中島秀之氏による「AI時代の人材像とその教育」についての発表がありました。



図2 基調講演におけるJohn O'Brien氏



図3 基調講演における中島秀之氏

■ 2019年度年次大会について

2019年度の大学大学ICT推進協議会(AXIES)年次大会は2019年12月12日(木)から14日(土)に福岡国際会議場で開催されます。

展示以外に企画セッションや一般セッション、出展者セミナーがあり、大学ICTに関する様々なテーマでの発表があります。大学ICTに関心のある方は是非ご参加頂ければと思います。

(渥美 紀寿:情報環境機構IT企画室システムデザイン部門助教)

EDUCAUSE2018に参加しました

■ EDUCAUSEとは

EDUCAUSEは情報技術を使用して高等教育を推進することを目的に設立されたアメリカの非営利団体です。日本における同様の目的を持つ組織である大学ICT推進協議会(AXIES)は、EDUCAUSEを参考に設立されています。EDUCAUSE Annual Conferenceは毎年行われている年次大会です。2018年のEDUCAUSEは、記念すべき20回目の開催となり、コロラド州デンバーにて、EDUCAUSE参加団体を中心に事例、最新動向の紹介等が4日間にわたって開催されました。10/30はワークショップ、10/31-11/2は基調講演を含む多数の講演・パネルディスカッションが行われました。41ヶ国から約8000人が参加し、うち約3000人が初参加でした。本学からは情報環境機構から教員2名、企画・情報部から職員3名が、大学ICT動向調査および他大学の現状把握を目的として参加しました。

■ 参加したセッションについて

近年、京都大学においてもセキュリティやクラウドサービスの重要性が増してきているので、これらに関するセッションに積極的に参加しました。特に印象に残ったセッションは以下のとおりです。

● Strategies for Streamlining Security Assessments Using the HECVAT

クラウド利用アセスメントの取り組みであるHigher Education Cloud Vendor Assessment Tool(HECVAT)のセッションです。京都大学では、国立情報学研究所(NII)の「学認クラウド導入支援サービス」を基に、クラウドサービス利用ガイドを作成していますが、より良いものとするために、HECVATとの評価項目等の比較が有効であると感じました。

● The Fiction of Best Practice: Information Security in Small Schools

各機関のセキュリティ予算に関するセッションです。平均値で見ると、各機関のセキュリティ予算はIT予算全体のわずか3%であり、セキュリティ専門スタッフが雇用されている機関は全体の34%にすぎないという状況でした。そのため、上層部や他機関の専門家との信頼関係の構築が非常に重要であるとの説明が印象に残りました。

参加したセッション全体を通して感じたことは、日本でもアメリカでも抱えている課題はほとんど同じなのですが、アメリカでは問題解決技法を非常に戦略的にとらえ、準備や手続きを大切にしているということです。課題に対しては、場当たりの対応ではなく、全体をとらえたうえで、一步一步手順を踏んで取り組んでいくことが重要であることを学ぶことができたのは非常に有意義でした。

■ おわりに

今回、EDUCAUSEへの参加を通して、アメリカにおける大学ICTの現状を学ぶことができました。併せて、多くの大学関係者から大学ICTに関する前向きな話を聞くことで、モチベーションアップにもつながりました。この経験を今後の仕事に大いに生かしていきたいと考えています。



(小寺裕之：企画・情報部情報推進課情報基盤掛)

セキュリティの話題から 第16回 セキュリティは自分で守る!

京大はジャングルと言う人がいます。確かに様々な人が生息しています。でもインターネットの世界はジャングル以上。今や世界の人口の半分以上、約40億人が繋がっているのですから。その人達の中には悪い人もいて、世界中のどこかからあなたを狙っています。なので、注意深く歩き回らないと危ないのがインターネット。このサイバー空間でセキュリティ事故が無くならない理由は複合的でここでは細かく説明しませんが、悪い奴らが居て、ソフトウェアの脆弱性(=バグ)がなくなり、そして人間は誰でもミスをするからだと私は考えています。

さて、それでは皆さんはそのサイバー空間の中のどこで悪い奴らと対峙しているのでしょうか?実は、悪い奴らとの戦いは、毎日皆さんが使っているパソコン(以下PC)やスマホ、あるいは自宅のブロードバンドルーター(プロバイダとの接続装置、以下ルーター)の中で、ほぼ24時間発生しているのです!戦いの最前線を守っているのは実は皆さん一人一人なのです。ではその戦いで、悪い奴らの手にひっかからないようにするためにはどうしたら良いのでしょうか?

基本は自分で守ること。Self Helpの精神です。具体的に最低限の安全確保動作を以下に端末類とアプリに分けて列挙します。

端末類(PC, スマホ, ルーター)では:

PC、スマホ共通:強いパスワード(以下PW)の設定。ウィルス対策ソフトのインストール(Windows10ならDefenderでOK)。OSやソフト、アプリを常にアップデート。

P C:使わない時は電源を切る。

ス マ ホ:アプリのダウンロードは公式サイトから。ダウンロードする前にそのアプリを開発した会社の素性を良く確認して。また、不要な広告は安易にタップしない。

ルーター:買ったままの管理者PWは駄目。必ず強いPWに変更すること。

アプリ(メール、Web、SNS)に関しては:

メールはテキストだけならば安全。良く知った相手とのやり取りの流れの中で使うこと。埋め込まれたURLと添付ファイル(特に実行可能なファイル)には要注意。自分からも添付ファイル付きのメールはなるべく送らない。

Webで個人情報を入力する時はhttps://で始まるサイトで証明書もしっかりしていることを確認。ブラウザの各種セキュリティ機能をオンにして活用すること。

SNSの情報発信では自分が責任者だということを肝に銘じてコンテンツを吟味すること。写真やビデオには意図せず対象の人以外の人やものが写っていることも多いので注意。他者への誹謗中傷、嫌がらせなどは絶対しないこと。

インターネットは生まれてからまだ60年足らずのシステムです。良く動いていますが、セキュリティに関してはまだまだ未熟な段階です。暫くはセキュリティ面での注意をしながら使っていく必要があります。おっくうがらずに、Self Helpで、上記の必要最低限の安全確保動作を守り、快適で有意義なサイバー生活を送って下さい。

最後に、セキュリティのe-Learningは、毎年受講が義務付けられています。特に学部2年生以上、外から来られた院生、研究生、留学生なども必ず受講して下さい。

(斉藤康己:情報環境機構IT企画室 教授(情報基盤部門長))



京都大学情報環境機構
Institute for Information Management and Communication,
Kyoto University

編集・発行: 京都大学情報環境機構
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
Webサイト <http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/>

掲載記事に関するご質問やご意見・ご感想などありましたら、ぜひ下記までお寄せください。

【総合窓口】
情報環境支援センター
E-mail: support@iimc.kyoto-u.ac.jp